

# 読書メモ2017年9月号

小室直樹著

『日本人のための宗教原論』（徳間書店）ほか

やなぎさわかつひろ  
柳沢克央 編

(信州・上田仮説サークル)

2017年9月23日(土・秋分の日), 9月例会用レポート

## ◇はじめに

先月号の「読書メモ」と同様、サークルで発表することを目的とすると、読書がはかどるので、今回もこのメモを作成しました。自身のため、記録を残すことが第一目的です。みなさま、よろしく(適当に)おつきあい下さい。今までのものと同様に説明あり、引用あり、要約あり、感想ありで諸々が混交しておりますのでご注意を。(私物)と書き添えてあるもの以外はすべて篠ノ井高校図書室蔵書。

私物の「積ん読」本が増え「読書予定リスト」は以前にも増して充実しています。夏休みにだいぶ消化・吸収できましたが、まだまだたくさん「課題図書」があります。読書の秋です。スムーズに流れるように「消化吸收」を進めていく予定です。

とはいっても、今月はなぜか「読書メモ」ではなく、「つれづれメモ」または「川柳日記」風になりました。「読書」をとってタイトルを「メモ」にしてみようかな、と思ったくらいです。最終的に「メモ」にはならなくて、少しホッとしています。

## ◇読書記録または読書メモ(順不同)

◎小室直樹著『日本人のための宗教原論』(徳間書店・2000年初版・2015年20刷)

本書の「はじめに」の冒頭が和歌で始まる。

○「この代にし 楽しくあらば こむ生には 蟲にも鳥にも 吾はなりなむ」(大伴旅人・万葉集)(今の私が楽しければ来世で虫や鳥になってもいい)(柳沢意訳)

この歌をきいて、外国人はみんな吃驚仰天する。朝鮮・韓国人も中国人も、南の国々の人々も、中近東の人々も、欧米人も、死生観は宗教が決める。来世に、尖鋭な関心をもたない人は、まずいない。日本人だけが例外である。だから、日本は無宗教国になったのか。

世界は一つになったといわれるが、宗教を理解しないと世界の人々と付き合っていけない。宗教によって行いが決まる。宗教が違えば、当然、行いが違ってくる。

しかし、宗教が違って人間はみんな同じであると思込んでいる日本人には、このところがピンとこない。何も考えないで、どこまでも日本流で押し通すから、外国人はすぐさま面食らって、日本人は奇妙奇天烈な人種だから付き合いきれないと思う。日本人は世界で孤立して交流も取り引きも困難になる。

世界の人々は、この世がどんなに苦しくとも、来世でよいところにゆくために努める。しかし、日本人に限って、この世が一番よくて来世なんかどうでもよいと独り合点しているのである。

インド人は、この世の本質は苦であると思っていた。ユダヤ人は、虐殺、追放と迫害の連続であった。だから、優れた宗教を生んで世界諸宗教の母体となった。仏教伝播の跡をたどってインドから中国へ来ると、「この世は楽しい」という気持ちが目立つようになってくる。「人生は皆苦」だとは思わず、自分たちの官僚制がよい制度だと思っている。この世が割合にいいと思って、来世にあまり関心のない中国からは、インドやユダヤほどの宗教は生まれなかった。

この世が最高だと思っている日本は、当然、無宗教国になった。

宗教がないから、カルト教団は簡単に人を殺して勝手に金を奪う。こんなにたやすくカルト教団がはびこれる国は他にない。

宗教がないから、学校は崩壊して、子供たちは自由に人を殺しても平気である。しかも、誰もその理由に気づかない。

宗教がないから、経済破綻ぐらいで闇雲に命を絶つので、自殺率は急増中である。

資本主義もデモクラシーも近代法も、深くキリスト教に根ざしている。キリスト教の

教義が理解できていないから、「資本主義」とは名ばかりの統制経済となり、三権は役人に篡奪され、近代法は機能せず、政治と経済とは破局へ向けて驀進中である……。

この本は、本格的な宗教原論である。各宗教の蘊奥（奥深いところ）から説き起こし、比較歴史的に、どのようにして、これらの蘊奥に達したかについて解明し、現代にどんな影響を及ぼしているのかを論ずる。

**キリスト教**の「アガペー＝愛」は、真に驚くべき教義である。それは、何千年ものイスラエルの宗教がのぼりつめた「苦難の僕」の教説から発生した。そして、全世界を包み込むほどのエクスタシーを発散し、資本主義とデモクラシーと近代法を生んだ。

**仏教**の「空」は、人類が到達した最深、最高の哲理であろう。それは、形式論理学、記号論理学をも超越している論理を駆使していることが、最近明らかにされてきた。「空」は、最近の社会科学、自然科学を比喻として用いるとき、初めて鮮明に理解されるであろう。（下線は柳沢）

**イスラム教**は、キリスト教が未発達のまま残した不完全な教義を補って完全なものとした。イスラム教では、仏教、儒教、キリスト教とは違って、ユダヤ教徒と共に宗教的戒律、社会規範、国家の法律とが全く同一である。このことは、最高の連帯（ソリダリテ）は何であるか、アノミーを防ぐためには如何にすればよいかを教えてくれる。しかも、この完璧性こそが近代化を阻んだ。近代化への疑問が噴出している昨今、イスラム教の二面性は大きな示唆を与えることになるろう。

**儒教**が本当に日本に入ってきたのは、戦後、特に昭和 30 年代以降である。科挙と同型の受験地獄によって日本の教育は崩壊し、官僚制は腐朽して、日本は滅亡の劈頭（先端）に立っている。これもすべて、法治であるべき官僚制が人治に墮したからである。儒教の誤解によって、ことここに至った。

この本に書いてあることは、誰も、考えてもみななかった、予想を絶することであるかもしれない。が、地動説のごとく、精神分析学のごとく、ケインズ理論のごとく、科学的結論は、ときに摩訶不思議に見えることもある。

これらの考察によって、世にはびこる、どの宗教が本物か偽物かがわかってくるであろう。どの宗教があなたをどう救えるかについても考えるようになることだろう。現在、日本が直面している諸難問にどう対決するかについての示唆を与えることであろう。

平成 12 年（西暦 2000 年）6 月

小室直樹

\*

以上が「はじめに」全文である。「あとがき」はない。通読し、要約を試みようとして初めて気がついたが、本書では「はじめに」がこの上ない、要約になっている。したがって、勉強になるかもしれないが、要約はしない。「あとがき」がないのは、「まえがき」がほぼ全てを語り尽くしているからであると思った。なんとも特異な構成である。

本書で著者が一番ノリノリで書いているのは仏教の説明の部分であると思った。次に引用してみる。

\*

○日本人にとって、この難解無比な仏教哲学の最も手頃な解説書は？ と問われれば、筆者は三島由紀夫（1925～1970）の最後の小説『豊饒の海』四部作を挙げる。仏教の唯識の哲学を補助線にしたこの作品は、三島が日本人に対して遺した最も適切な仏教入門ともいえよう。（208 ペ）

○…つまり、人間の魂が輪廻転生することはない、ということである。このように最後の最後で、三島は魂の輪廻転生を明確に否定、ここに『豊饒の海』で三島が主題にした唯識が明確に打ち出されている。

唯識の思想は大変難解だが、一言で言えば「万物流転」、すべてのものは移り変わる、ということである。

仏教の「空」という論理は、すべてが仮説であり、すべては関係であって、実在するものは何にもない、というものである。

結論からいえば、魂の輪廻転生を否定した三島は、生まれ変わって復活するのは何かという宿題を読者に残した。（210 ペ）

○阿頼耶識は、生命の中核であり、「我」よりもさらにその根底にある生命そのものに執着する。阿頼耶識の発見こそ、唯識論最大の発見であるとされている。（215 ペ）

○人間が死んだらどうなるのか。ユダヤ教は、これについてほとんどふれていない。死後の世界という考え方はユダヤ教には本質的にないのである。これは、宗教的天才であるユダヤ人の卓見であると、マックス・ヴェーバーは感嘆した。（224 ペ）

○…罪を赦されて永遠の生命を得る、これが、キリスト教における救いの構造である。（226 ペ）

○空観（空の理論）は、形式論理学を否定した一種の超論理学を使っている。このことが、空の理解を途方もなく困難にした。このことは、ユークリッド幾何学に比べて、非ユークリッド幾何学の出現・理解がはるかに困難であったことを思い出しただけで思い半ばにすぎよう。（240 ペ）

○空は有でもなければ無でもない。と同時に有であり無である。また、有と無以外のものでもある。形式論理学でいえば全くありえないこの論理が、仏教のもっとも大切、重大な論理なのである。（242 ペ）

○仏教は、キリスト教とは根本的に違って、また、ユダヤ教ともイスラム教とも違って、予定説を入れる余地は少しもない。「救われるか、救われないか（比喩的にいえば、極楽へ行くか、地獄へ行くか）は、全く仏の自由な意志決定によって決まる」という考え方は、仏教には片鱗すら見当たらない。そもそも、「仏の意志決定」というアイデアがないのである。救われるか救われないかは、仏が決めるのではない。仏以前に存在するダルマによって決まるのである。すべて本人次第なのである。その決まり方は因果律による。

ゆえに仏教の論理が終始因果律で貫かれていることは、宗教社会的、宗教心理的に、驚くべきことである。

ヴェーバー的表現を用いれば、仏教の神義論は、ヒンドゥー教同様、幸福の神義論なのだ。（263 ペ）

○線は、外界にある物質としてはありえない。人の識のなかにあるものにすぎない。しかも、感覚とも関係しない。

点も線も、実在するものではなく、モデル、すなわち仮に考えておいたものにすぎない。

それは、有でもなく、無でもない。それは有であると同時に無である。それは、有無以外のものでもある。

すなわち、それが空である。（270 ペ）

○形式論理学、記号論理学、そしてユークリッド幾何学も同様だが、まず行う作業は定

義を決めることである。直線とはなんぞや、三角形とはなんぞや、という定義を述べて、それから公理という命題を作る。そしてその公理から形式論理学、あるいは記号論理学だけを使って、さまざまな定理を導き出す。これが完全理論である。いわば、初めに定義ありき、という学問体系である。

近代において、その体系ですべて真理が導き出せるとする考えに最初に疑義を抱いたのが、マックス・ヴェーバーである。マックス・ヴェーバーこそ資本主義論の祖のように呼ばれているが、そのヴェーバーは資本主義を語る際、初めに資本主義の定義を下すことをせず、議論を終えてから定義を下すという態度をとった。なぜなら、資本主義らしきもの、資本主義に似たものといった疑似資本主義が多数存在するため、定義を満たすだけの条件整理ができておらず、その状況下で定義付をすると、真相の解明に支障を来す。まずはそういった条件を全部整理した上で本質を解明し、定義を下そうというのがヴェーバーの考えだった。

じつはこの考え方は、現代数学の考え方に通ずるものがある。

最新の数学の手法は、まず無定義要素を要請する。すなわち何も定義しないのである。点、線などの定義付けを何も行わず、無定義のままの要素を用い公理を作り、定理を導き出す。

無定義要素の本質は、無定義のまま、仮にそういうものとして考えておく、いわば仮想のものなのである。(271 ペ)

○近代の科学が現代にいたりようやくたどり着いたモデルは、すでに 2000 年近く前に仏教哲学が唱えていた論理でもあったのだ。(277 ペ)

＊

分厚く、たいへん格闘しがいのある本であった。それにしても極めて安価で、啓蒙を意識した、ルビなどに特徴がある本だと思った。

まだ、全体像が良く理解できたとは言えない。言葉は平易であるがその説明している論理は極めて深い。さらに再読する機会が必要だと思うが、今回はこの辺で筆を擱く。

### ◎永千絵著「父「永六輔」を看取る」(宝島社・2017 年)

妻が町の図書館で見つけて借りてきた。特に永六輔氏のファンではなかったのだが、この本を読んで、他の本も読みたくなっている。

何せこの本の返却期限は短い。急いで読まなければ…。そう思っても、なかなか読め

なかったが、一応、バッグには入れていた。それが、あるきっかけで一気に読めた。9月15日（金）に県庁で教育課程連絡会議があつて（長野工業高校の春原文好さんに会えた）、〇〇だったのでバッグから取り出して読んでみたら、20分ほどで点検読書ができた。内容は題名の通りで、著者（永六輔氏長女）の介護と葬送の体験を書いた当事者手記。気に入った部分を引用。

## ○インドネシア人介護士の正体

パーキンソン病でお世話になっていた神経内科の病院では、診察のあとにリハビリがあった。

ここでは、座ったまま、横になったままできる簡単な体操を教えてもらうとともに、真っ直ぐで長い病院の廊下を、男性の作業療法士さんが父の脇について一緒に歩くリハビリを行った。

リハビリで廊下を歩く父は、隣に療法士さんがいると安心するのか、少し曲がってきた背中の子もせいで、ますます前傾姿勢になってしまう。

「永さん、前を見てください。向こうに扉が見えるでしょう」と療法士さんが父に声を掛けながら一緒に歩く。

父は立ち止まって「ふうっ」と息をつき、顔を上げ、廊下の先の扉を見る。

「あそこまでいくの？」

「行きますよ」

療法士さんに励まされて、再び歩き出した父は、少しすると、また前かがみになって、足元しか見なくなる。

わたしはそんなときたいてい、ふたりの横を少し離れて、同じように、ゆっくり歩いた。父は背も高く歩幅もあったから、若い頃は、子どもの足では追いつけないくらいの速足で歩いていたのだが。

あるとき、父に活を入れてやれと思って、横から声を掛けた。

「孝雄くん、また下見てるよ。上を向いて！ 上を向いて歩こうよ！」

父がぎょっとした顔でこちらを見た。

「え？ 何かいけないこと言った？」

父が苦笑いしている。その詞を書いた人に「上を向いて歩こうよ！」だなんて。ほとんど反射的に、無意識に出た言葉だったのだが。

「ごめん！」と、わたしはなぜか謝ってしまった。

このことがあってから、父は自分のリハビリ体験、介護される体験について、これを元ネタに毎回たくさんの人が笑ってくれる、次のような話をするようになった。

「リハビリをしています。”リハビリは裏切らないから”です。

今、東南アジアから若者がたくさん来ていますね。日本で介護士になる勉強をしている人たちです。

ぼくのリハビリを担当した青年もインドネシアから来た人。あるとき、彼と病院の廊下を歩いていたら、彼が言うんです。

『永さん、下ばかり見ていたら危ないですよ。日本にはいい歌があるじゃないですか？上を向いて歩こう、っていう歌、知っていますか』

ぼくは『知らない！』って言いました。恥ずかしかったからです。

それで、そのあと担当医にこれこれこういうことがあった、って話をしました。先生には『嘘はよくないですね、永さん、あなたが作った歌なのに』と言われました。

ぼくも、そうだな、と思って、その青年に、次のリハビリのときに言いました。

『この間は、そんな歌知らない、って言ったけど、本当は知ってるんだ。だってぼくが作った歌だから』

そしたらその青年がね、言うんです。

『またまた、永さん、嘘ばかり！』

当時、東南アジアから介護の勉強をしに、大勢の若い人たちが日本に来ていた。ところが、実際に研修が始まってみると、日本語の介護用語が難しい、日本人とはやり方が違う、などということがあって、父は、彼らにとって介護士の資格をとるハードルが高くなっていることに心を痛めていた。父としてはそこらへんの事情も絡めながら、ひとつの物語に仕立てたかったのだと思う。

話として面白いし、よくできている。特に後半の展開は、さすがだ。なるほどね、脚本というのは、こうやって書くものなんだね、療法士と介護士の区別もついてないけどね、などと感心したり呆れたりしながらも、内心は穏やかではない。インドネシア人介護士の正体は、わたしなのだから。なんだか手柄を横取りされた気分である。(78 ペ)

### ○タクシーが横転して、呂律が回るように？

父が運ばれたのは、顔見知りの整形外科医のいる病院だった。しかもなんと幸運なこ



とに、その夜はその先生が当直だった。

「整形外科のお医者さんが当直じゃなかったら、一晩泊まり、ということになったかもしれないね」と看護師さんに言われた。よかった、病院に一晩泊まるなんてこと、父に我慢できるはずがない。いくつか検査をして、特に異常なし、ということだった。やれやれ、これで連れて帰れるか、と思ったら、帰る前に警察に寄らなければいけないという。

父をわたしのクルマに乗せて、事故のあった場所からいちばん近い警察署へ向かう。さっき救急車に乗って病院に運ばれた人が、以上がないとはいえ、なぜ自分から警察署に“出頭”しなければいけないのか、よくわからなかったが、父は特に嫌がっているようでもなかった。いつだって、新しい体験は楽しまなきゃ損だ、と考える人である。

「運転手さんは無事ですか」

父とは別の救急病院に運ばれたというタクシーの運転手さんを心配して訊く父に、警官は「個人情報ですのでお教えできません」と言った。事故当時の状況や、病院で「今の時点では異常なし」と言われたことなどを伝えて、夜遅く、家に戻った。

翌日の朝、新聞、テレビのワイドショーで「永六輔 交通事故！」というニュースが流れた。どこそこから乗ったタクシーがどこそこで事故を起こし、特にけがはなし。なかには「全治二週間」などという間違った報道もあった。これはすべて警察の発表だった。

「運転手さんの個人情報は守られるのに、ぼくの情報は発表されちゃうんだね」

父が怒るのももともとだ。誰の個人情報も分け隔てなく守られるべきではないか。

父は早速「乗っていたタクシーが横転しました」と自分のラジオ番組で報告した。ここでも「父の話は半分」で聞かなければならない。車は横転はしていない。横転したとしたら、それは車の横腹に衝突された相手のタクシーだったはずだ。

ラジオ番組宛てに「永さん、大丈夫ですか」とご心配いただく手紙やメールが届いているにもかかわらず、父は次のようなことも言っていた。

「乗っていたタクシーが横転しました（してないっ！）このタクシーにぼくを乗せたのは小沢昭一さんです。小沢さんが言うには、『永さん、壊れたラジオって、ひっぱたくと直るじゃない。永さんもさ、あの事故のあと、呂律が回るようになったね。よかったよかった！』」

パーキンソン病の投薬が始まって三ヵ月、症状が改善されてきたことと、この事故の時期が重なっていたのは偶然とはいえ、小沢さんの話が冗談にも聞こえないのがすごい。

事故で怪我をされた方がいるので、そんな冗談でも面白いのは不謹慎なのだが、この事故の前後から「永さんがまたしゃべれるようになった！」と評判が立ったのも事実である。(84 ペ)

### ○夜中に始まった父の”ひとりラジオ”

...夜の十時頃だったろうか。病院だから、もちろん消灯時間はすぎている。薄暗い部屋の中で、父が突然、声をあげた。

簡易ベッドに座っていたわたしは自分が呼ばれたのだと思って、ベッドから立ち上がって「はい！」と返事をしようとした。しかし、どうも様子がおかしい。すると、起きているのか寝ているのかもわからない父が、滔々としゃべり出した。

わたしがなにごとかと啞然としているうちに、どうやら翌日の生放送でしゃべるつもりらしい内容だということがわかってきた。

「転んでしまいました。お医者さまには『絶対に転ばないように。転んだら、寝たきりになる可能性もあります』と言われていたにもかかわらず、です」

スタジオで、まるで目の前にマイクがあるように話し続ける。夢を見ているわけではない。脈絡のない話ではないのだ。翌日の番組のアタマでしゃべろうと思っているとしか思えない内容を、じつによどみなく、理路整然と、活舌も悪くなく、しゃべる、しゃべる。... (中略) ...

夜の病室で、父の”ひとりラジオ”をわたしはしばらく呆然と聞いていた。うんうん、そうか、なるほど。感心している間も、ペラペラと父は話し続ける。

うんうん、それでそれで、と聞いているうちに、これは録音しなくちゃいけないのではないかと急に思った。病室だから、録音できる機械はわたしの携帯電話しかない。そこで、携帯の電源をいれたとたん、「ちろん」と電子音が鳴った。その瞬間、あれだけしゃべっていた父が急に黙った。

しまった。そっとベッドに近づくと、しっかり目を開いて起きている父がいた。

「大丈夫？ だいぶいろいろはなしをしていたみたいだけど」

起きたばかりに見える父に聞いてみた。

「話してた？」

「はなしてたよ、明日のラジオで話すつもりだったみたいな内容を」と答えたものの、言われた父は寝起きのようで、明らかにぼーっとしている。寝たまま、立て板に水のように話をしていた状態より、目を開けているときの方が夢を見ているみたいだ。

どれだけ仕事に生きてきたんだろう、この人は。

さっきまでとは打って変わって、ぼんやりした様子の父を見て、そう思った。(93 ペ)

### ○車椅子の上での発見

父はそんな車椅子の上で日々いろいろな発見をしていた。

元旦、近所の神社に屋台が並んだときのこと。人ごみを車椅子で抜けるのは大変だったが、父はたこ焼きやお好み焼きの屋台の前で、「低い目線からだを作る人の手元がよく見える」と喜んでいて。

また、父を乗せた車椅子に慣れていないナースさんと外出したときのエピソードもうれしそうに話してくれた。

「横断歩道から歩道に上がるのが大変で、ふたりで『手を貸してください！』って通りすがりの人に声を掛けたんだよ。そうしたら、若い男の子がぱぱっと寄ってきて、車椅子を歩道に上げてくれた」

父は、不便があっても、それでもどこかに「これは楽しい！」ということを見つけることができる人だった。自分の父親ながら、こういったところは見習いたいし、すごいと思う。

「車椅子になりました」というと、感覚的には「お気の毒に」という言葉が続いて出てくる。たしかに行動は制限されるし、そもそもひとりで出歩くことが好きだった父が、出かけたいときに出かけられないというのは、文字通り手足をもがれたのと同じことだったのではないか。

しかし、われわれ家族はなんでも楽しもうとする父の前向きな姿勢に助けられていた。

(155 ペ)

### ○家族だからできること、他人だからできること

圧迫骨折が治り始めコルセットが不要になった頃だったか、「お風呂に入りたい」と父のほうから言われたときには、ナースさんに相談した。わたしはひとりではやはり怖いし無理なので、ナースさんがいらしたときに入れてもらおうということになった。

父に「今日、ナースさんがいらしたときにお風呂入る？ ナースさんなら安心だよ」と聞いたら、う～ん、とちょっと考えてから、こう言った。

「入りたいけど、じゃあ、ナースさんが来る前に身体を洗っておこう」

気持ちはわかる！ よーくわかるんだが、それって本末転倒ではないか。うちで、「お

風呂場の徹底クリーニング」を頼んだ時と同じだ。クリーニングのひとが来る前に、結局、せっせとお風呂場を掃除してしまった経験がある。

訪問ナースさんには一年間、業務以外のお世話までお願いしてしまった。(158 ペ)

### ○父がラジオでカミングアウトしたこと

...いつのことだったか「紙パンツをはいてみないか」と聞いたことがある。

「間に合わないと思って慌てると転ぶかもしれないでしょ。あ、間に合わない、思っても紙パンツはいていたら安心できると思うんだけど」

「ぼくが紙パンツをはいたら、あなたが安心なの？」

「そうだね。安心だね。でもきっと孝雄くんも安心できるよ」

そして、わたしのために、というかわたしが半ば強引に押しつけた形で、父が紙パンツを試してくれることになった。

すると、その後少しして、ラジオ番組に鎌田實先生（諏訪中央病院）がゲストとしていらしたとき、生放送のスタジオで先生を前にした父が突然「ぼくは今、紙パンツをはいています」と言った。

父としてみたら、自分が安心するために、親に紙パンツをはかせた娘の所業を先生に言いつけるつもりだったのかもしれない。

ところが間髪をいれず、「ぼくもはいていますよ」と鎌田先生が笑って答えた。明るい声だった。先生の声には父を励ます調子も聞こえた。当時、先生は紙パンツの CM に出ている、ご自分でも試していたらしい。

やった！ 先生だってはいてるんだ。いつもでなくていい、ちょっと心配なときに紙パンツを使うことを嫌がらないでいてくれたら、父も安心、わたしも安心だ。

あとから気づいたことがある。父に「紙パンツをはいてみよう」と言うだけでなく、はいてほしいと思ったら、本当は言う前に実際に自分で試してみないといけなかったな、ということ。いずれ、わたしも紙パンツのお世話になるのだから。(169 ペ)

1000 字程度の「小咄」の連鎖で成り立っている本。読んでいると目に情景が浮かんでくるような気がするものが多いのは、放送作家の御父上ゆずりの筆力と拝見した。有名人も楽じゃないな。年寄りになったらみんな同じだな...、経済的な基盤なくして老後の安心なしだな...などと自分の将来のことを重ねて想像してみるなのであった。

◎松竹伸幸著『対米従属の謎』(平凡社新書・2017年) (私物)

本書のヘソと思われる部分を次に引用。

\*

○…日本型核抑止力依存政策が確立してから、もう半世紀が経っています。私はこれこそが、日本の対米従属の深層にあるものだと思います。アメリカから何か言われれば、あるいは何を言われなくてもアメリカの意向を忖度し、付き従ってしまうのは、ここに根本の原因があると考えます。

だって、そうでしょう。いざという時には、アメリカに核兵器を投下してもらわねばならない、日本の平和と安全のためには決定的に重要であると信じているわけです。しかし、それをいつ、どのように投下するのかには、日本はまったく関わらない。関わらないことを国是として、すべてアメリカに任せる。実際に核兵器を投下する局面がきたとしても、それが日本の平和にとって大事かどうかの判断も、日本はしない(できない)。平和にとって大事だと信じきる。そういう態度を取りながら、自主的に政策を決められるなんて、どう見てもありえない。ことです。…(中略)…

結局、この問題がキーポイントだと思います。従属の根底にあるものはこれなのです。本書でこれまで論じてきたことを整理すると、以下のようになるでしょう。

最初に述べたように、従属には原点というものがあります。ドイツと異なり、アメリカに対して反抗できない人々が、日本では政界の主流にならざるを得なかった原点です。

敗戦にともなう占領が終わっても、事実上、占領の継続が続くという特有の問題もありました。それを独立国として選択したかのようなかたちをとったので、独立国なのに従属的な態度をとるということが前例として残ったのは、その後にとって否定的な影響を与えました。

新安保条約下では、過去の前例を楯にして、アメリカのやることを何でも指示する、悪いことも見逃すということが行われました。そして、その新しい前例が、その次の前例を生み出すという悪循環に陥ります。時間が経ったから自主性が回復されるということではなく、その時間の経過の中で前例がくり返されるので、時間が経てば経つほど従属度が深まっていったのです。

しかし、そういう前例があったとしても、本当に腹をくくって克服しようと思えば、何とかなっただけなのです。それなのに、なぜ腹をくくれなかったかといえ、いちばん大事な問題でアメリカ任せだったからです。

日本政府は 1960 年代末、アメリカの核の傘に入ることによって、日本の平和を究極

的に担保するのは、非常時にアメリカに核兵器を使用してもらうことだと覚悟を決めたのです。日本の平和を担保するのは日本の決断ではなく、アメリカの気持ち一つだということになると、アメリカがちゃんと日本のことを大事に考えてくれるよう、すり寄るしかなくなってしまう。たとえ核兵器の使用であれ、その判断に日本が加わるというなら、その決断が日本のために必要かどうかを自分の頭で考えることができるのに、アメリカ任せになっているので、本当に日本のために使ってくれるか不安になり、ただただアメリカに従属するしかなくなってくるのです。

そういう日本の政策は、日本国民の強い反核世論を背景にして選択されたものです。というよりも、日本に核兵器が持ち込まれることが明らかになったり、日本が核兵器の使用に関わることが表沙汰になると、自民党政権に対する国民の支持が弱まるので、日本とアメリカの政府がいっしょになって作り出したものです。自民党政権が倒れるくらいなら、NATOと異なり不便はあるけれど、こんな程度にとどめておこうということだったのでしょう。日本型核抑止力依存政策は、保守政権の永続化と一体のものだったわけです。

しかし、日本の国民も、うすうすはそういう事情があることを分かりながら、その政策をとる自民党政権をずっと支持し続けてきました。その点で、日本の対米従属が継続しているのには、責任の性質は自民党とは異なりますが、国民の責任もないわけではありません。

大事なことは、日本型核抑止力依存政策が対米従属を生み出すのなら、別の防衛政策がなければそこからは抜け出せないということです。それなのにこれまで、核抑止力に替わる防衛政策の対案が提示されてきませんでした。ソ連や中国が核兵器を投下してきた時にはこうする、という答えが、防衛政策の分野では、核抑止力以外には出てこなかったということです。

保守層から出てこなかったのは理解できます。先ほど述べたように、核抑止力依存政策が、保守政権の維持にとって好都合だったのです。けれども同時に、革新派、護憲派からも対案は出てきませんでした。というよりも、外交で何とかなるとして、防衛政策を持たないことを誇りにしてきたのが護憲派です。

それでもかつての社会党の非武装中立政策は、一時期、それなりの支持を得ていました。米ソが対峙し、全面核戦争を戦うという想定のもとでは、戦場になった場所はどこも「耐え難い損害」を被るのであって、多少の武力を保有していてもムダになるし、それならアメリカともソ連とも距離をおいて中立でいこうというのは、それなりのポジシ

ョンを占める考え方だったと思います。しかし、いっさいの武器を持たないというのは、国民多数の支持を得られるほど、信頼性のある政策だとはみなされませんでした。

この状態を打破しなければ、いつまで経っても対米従属は続きます。「戦後 70 年以上経ってなぜ対米従属か」という本書の結論はここにあります。それならば、対米従属から抜け出すために、日本型核抑止力依存政策に替わる新しい政策が待ち望まれます。

(225 ペ)

\*

本書が矢部宏治氏や孫崎享氏による類書と異なる点は、上記の点にあると思った。「日本型核抑止力依存政策」と過去の政策をくくってみせることで、この枠組みを意識化することにより、新しい考え方へ移行（パラダイム・シフト？）することが必要だと説いている。この点に希望の光が見られるが、どのように解けばいいか…今の私には糸口さえ見出せない。さりとて、絶望することもない。これ以上、この依存を進めないようにすればよいと思えるからだ。

来る秋の総選挙でこの分野に関する論戦が顕在化するかどうか、刮目していきたいと思っている。

### ◎市村よしなり著『人生で大切なことはみんな RPG から教わった』（バジリコ・2010 年）

あるとき、「人生とは、自分自身が主人公である現実の RPG ではないか！」と気づいた。このことについて何か書いてある本がないかと検索したら、この本が見つかった。Amazon の古本で購入。この本の「へソ」を次に引用して紹介してみる。

\*

○僕が皆さんに言いたいことは、

- 世の中は、幾重にも入れ子状になった RPG である
- 押し付けられたシステムの奴隷にならないためには、クリエイターの視点が必要だ
- 主体的に生きることで、他人が作ったゲームの中でも、自由に動くことができる
- 主体的に生きるためには、自分を楽しませ続けることが必要だ
- あなたは、あなた自身の人生という RPG の創造主になる資格がある

という、五つのことです。

人生は、有限です。誰でも最後はタイムオーバーでゲームを終えます。

それまでのプレイ期間、意味もなくスライムを叩き続けるストーリーで満足ですか？

自分を高めて、魔王やドラゴンと戦って、幸せをつかんでみたいと思いませんか？

いいえ、いっそ、自分の考えたシステムと、自分の考えたストーリーの中で、自由に大活躍してみたくはないですか？

僕は今、自分自身の **RPG** を作り、プレイし、そしてキャラクターとしてその世界を自由に冒険しています。リアル的人生は、**RPG** と同じくらい、わくわくして、楽しくて、ドラマチックになれるんです。(189 ペ)

## ○冒険の書

あなたは、どんな冒険をして、どんな宝物を手に入れたいですか？

あなたの冒険は、どんなハッピーエンドを迎えますか？

それは、いつ、どこで、誰と旅する冒険ですか？

最後に手にした宝物は、あなたにどんな変化をもたらしますか？

あなたが既に持っている武器・アイテムは何ですか？

現時点で立ち向かわなければならない謎やボスキャラとは何ですか？

その宝物を手に入れることは、あなたにとってどのような意味がありますか？

それでは冒険に出発！ という時、まずは何から始めますか？

さあ、どんな冒険をはじめよう……。 (194 ペ)

\*

人生は **RPG** (ロール・プレイング・ゲーム) であるという比喻は、生徒たちにもかなり新鮮なインパクトを与えてくれると思う。時と場面に気をつけて、この言葉の意味を噛みしめることができれば、有意義なことだと今、思っている。

## ◇次回以降の予告

◎ローレンス・A・カニングラム著／長尾慎太郎監修『バフェットからの手紙 (第4版)』

(Pan Rolling 株式会社・2016年) (私物)

◎森田敦史著『なにもしていないのに調子がいい』(クロスメディア・パブリッシング・2016年) (私物)

◎島地勝彦著『神々にえこひいきされた男たち』(講談社+α文庫・2017年) (私物)

◎板倉聖宣著『増補版・模倣と創造』(仮説社・1987年) (私物)

◎たくきよしみつ鐸木能光著『シンプルに使うパソコン術』(講談社ブルーバックス・2007年) (私物)

◎八代目桂文楽著『芸談あばからべっそん』(ちくま文庫・1992年) (私物)



- ◎星新一著『気まぐれ指数』（新潮文庫・1973年）（私物）
- ◎<sup>かつべみたけ</sup>勝部真長著『上に立つ者の論理』（PHP文庫・1994年）（私物）
- ◎山本七平編『帝王学―「貞観政要」の読み方』（日経ビジネス文庫・2001年）（私物）
- ◎<sup>ごきょう</sup>呉兢著・守屋洋訳『貞観政要』（ちくま学芸文庫・2015年）（私物）
- ◎出口治明著『座右の書「貞観政要」』（KADOKAWA・2017年）（私物）
- ◎マックス・ウェーバー著・中山元訳『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』（日経BPクラシックス・2010年）（私物）
- ◎牧野雅彦著『新書で名著をモノにする「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」』（光文社新書・2011年）（私物）
- ◎廣松渉・加藤尚武編訳『ヘーゲル・セレクション』（平凡社ライブラリー・2017年）（私物）
- ◎<sup>やまだつよし</sup>山田剛史・<sup>はやしはじむ</sup>林創著『大学生のためのリサーチリテラシー入門』（ミネルヴァ書房・2011年）（私物）
- ◎西鋭夫著『國破れてマッカーサー』（中公文庫・2005年）（私物）
- ◎アレックス・ラインハート著・西原史暁訳『ダメな統計学―悲惨なほど完全なる手引き書―』（勁草書房・2017年）（私物）
- ◎文藝別冊『KAWADE 夢ムック・立川談志』（河出書房新社・2013年）（私物）
- ◎松尾英明著『ピンチがチャンスになる「切り返し」の技術』（明治図書・2016年）（私物）
- ◎ジェームズ・ヒュームズ編・長谷川喜美編訳『チャーチル 150 の言葉』（ディスカヴァー・2013年）（私物）
- ◎山田正次著『アメリカに振り回される日本の貿易政策』（日本経済評論社・2017年）（私物）
- ◎<sup>あらお</sup>新津新生著『蚕糸王国長野県―日本の近代化を支えた養蚕・蚕種・製糸―』（川辺書林・2017年）（私物）

#### ◇まとめ・つぶやきなど

○8月19日（土）川柳を思いつく。「ゆずり合う席に割り込む知らぬ人」,「梅雨のあと秋雨が降る夏いずこ」。ハガキに書いて投函。毎週土曜日に折り込まれてくる週刊紙「週刊うえだ」のアンケートに応募。「おたよりコーナー」欄用に身近な話題を書くことが応募の条件だったので、十数年前に妻から聞いた（かつて、サークルでも話した）次のエピソード

ソードを書いた。

知人は毎日、通院仲間と待合室で世間話をするのが日課。「きょうはAさんが来ていないね～。どうしたの?」、「Aさんはきょう、具合が悪いから休みだって」。

Bさんがお医者さんから「どこも悪いところはないから、明日から来なくていいですよ」と言われた。次の日からBさんはショックで寝込んでしまったとか…。

病気とは何か、医療とは何か、という問題を通して人間の不思議を考えさせてくれるエピソードと思うのだが、どうだろうか…。実話です。〔8月21日（月）15:15コピペ〕

○『週刊文春』最新号を読む。「川柳のらりくらり」というコーナーがあることは前から知っていた。応募してみることにした。はがき一枚に五句まで書いて応募できる。今回のお題は「読書」。電車の中で反古紙にスケッチを書き始める。お腹がすいていたせいか、アイデアが結構わいてきた。家に着いてからさらに二、三句作って、推敲し、五句に絞って万年筆で清書。「速読を目指し積ん読から始め」「乗り越して折り返し待つ間も読書」「拾い読みだけで詣でる読書会」「買い並べ背文字時々精読す」「君を待つ時にヘーゲル読む修行」の五句。本日投函。発表は10月5日（木）の予定とか。「これがホントの読書メモ」〔8月22日（火）9:45〕

○信毎柳壇に向けて川柳を作る。「ナンデスカデスティネーションキャンペーン」「今週も生きてる証ゴミを出す」「井戸端の会議スマホの中でする」帰りに投函しよう。〔8月22日（火）12:03〕

○8月25日（金）『週刊文春』最新号を読む。今週の「川柳のらりくらり」お題は「差し入れ」。テスト監督の間にスケッチをして、終了後に研究室に戻って推敲。とりあえず六句できた。「ふらり来る先輩ジュース（西瓜）ぶら下げて」「差し入れにぶら下げられて合宿所」「差し入れの箱を底まであらためる」「課長をば従えピザの箱届く」「差し入れを食べりゃお世辞に尾ひれ付く」「君の顔と西瓜見比べ頬緩む」。これとは別に信毎の折り込み広告月刊誌「とわいえ」の川柳コーナーを発見。お題は「母」。二句まで応募できる。

「君なくば吾はこの世に居らざりき」（擬古文体であること、これだと父でも良くなってしまうことなど問題はあるが、味わいはあると思う）。「母の梅干し弁当のへソになる」「ありがとう十月十日の宿の主」、家に持ち帰ってさらに推敲することに。〔8月25日（金）16:35〕

○8月26日（土）、上田仮説サークル例会の日。午前中はジムへ。午後は「予習して少し早めにサークルへ」（五七五）。今日の時点で9月号は4ページ分入力済。

○「今年の食べ納めに」と思って西瓜を買って、「帰ったら妻も西瓜を買っていた」。週

刊上田新聞社から立川談慶独演会のチケットが届いていた。先日、この賞品が欲しくてハガキを一枚出しておいたのが「抽選で運良く」当たったのだ。「抽選で運良く」というのは「私がもしも週刊上田新聞社の編集者だったら…」と想像すると、奥が深い。〔8月29日（火）夜〕

○通勤電車の中で川柳を考える。研究室でスケッチから始めて三句作る。これらを清書して信毎柳壇に投句。「予報見て決める西瓜の食べ納め」「手が届くうちに秋刀魚を食べしておく」「刀見てやはり食べたくなる秋刀魚」。〔8月30日（水）9:00〕

○篠ノ井高校会議室にある川村驥山の書「動中静静中動」の鑑賞の仕方が少しわかった気がする。ハッキリ言えば、わかったのだ。いっけん不規則に書いてあるように見える作品だが、よく見てみると、幾何学的に綺麗な補助線や大きな波線などが何本も引ける（見える）。短歌などを「散らし書き」してある作品と同じように鑑賞すればいいはず。少なくともそのように鑑賞することは私の自由である。〔8月30日（水）9:40〕このことについて追記。「動中静静中動」で思い出すのは状態変化の時の温度変化である。理想的な条件の下で実験した場合、状態変化が起きているときは温度変化が起きない。温度変化が起きているときは状態変化が起きない。という関係。〔9月5日（火）10:45〕

○「川柳のらりくらし」に応募する句をいくつか作り、五句に絞ってハガキに書き投句。お題は「芋」。「芋と麦そばコメ黒糖肩並べ」「我作る芋でカレーを作る君」「『芋粥』の五位に似ている日本国」「〔他は芋君はメロン〕と口説く俺」「デパ地下で買った芋から後光さす」。ハガキ出し家に戻ってもう一句「川柳をひねる平和な日曜日」。〔9月3日（日）11:30〕追記：後日わかったが、川柳を詠む場合は「吐く」というそうだ。〔9月5日（火）12:45〕

○化学実験のレポートを読んでいる最中、五七五がたくさんできて止まらなくなってしまう、とにかくメモを取った。出来はともかく、せっかくこの世に生まれてきたフレーズなのだから…と思うと、もったいなくなり、とにかくメモ。「近いうちやれる機会を作ります」（生徒からのリクエスト「アニリンブラック（染料の一種）を作る実験をやってみたい」に対して）、（「ニトロベンゼンがうまくできなかった」という生徒の記録に対して）「ニトロ化が不十分だと思われる」、他に「赤本は見たときすぐにおけ」、「ともかくも思いついたらメモをとる」、「コーヒーを飲んで予定を考える」、「受かる人受かるべくして受かっている」、「授業受け事務能力を伸ばそうよ」（私は最近、高校教育の重要な目的の一つは「事務能力の養成」だと思っている）（事務能力という言葉があることは、サークルで渡辺規夫さんから教えてもらった）、「放課後に教育課程委員会」、「書きとめ

る手から川柳溢れ出る」等々。〔9月5日（火）10:30〕

○3時間目、1年5組の「情報」授業の自習監督でパソコン教室へ。ホワイトボードに「本日は水野先生出張で代わりにチョットヘンな先生」（化学・柳沢作…この作は名前ではない）と板書し、自己紹介。生徒たち（特に女の子）も私もニコニコ。「出席を取りま〜す。いない人返事して！」「…シーン…」「そこが篠高生の長所であり、欠点である」「??？」  
「そのうちにわかるよ」〔9月5日（火）11:20〕

○「…かもしれない」と思うことが大事。・子どもの「飛び出し」への運転対応。私大受験に絞り込むことは愚か（マイナス）「かもしれない」と思っていること。・『走れメロス』の意味が本当にわかるのは、歳をとってから「かもしれない」。・コンビニには意外に良い本がある「かもしれない」と思ってよく見ていると、実際に良い本がある！・「本はamazonや平安堂で買うもの」とだけ思っているとイイ情報は入ってこない。・「仮説」があるから「実験」ができる。〔9月5日（火）17:50〕

○授業で生徒が食いついてきたように見えた話。タイトル「戦わずして勝つ」。レポートを催促されたA君のエピソード。推薦入学で志望校合格。「負けるが勝ち」でもある。〔9月5日（火）17:50〕

○「どうしてレギュラーにしてくれないの？」「どうして合格にしてくれないの？」と思っている時点で、負け。合格ラインは動かない。合格ライン内に入ろうと思ったら、自分がラインの内側の位置まで動く必要がある。したがって、「そのままのキミでいいんだよ」は「一時避難」なのではないか。女の子に「どうしてぼくのことを好きになってくれないの？」と訊き続ける奴はストーカーである。この男はどういうわけかわからないが、女の子の設定する基準を満たしていないだけなのだ。それなら、諦めるしかない。諦められないなら、基準内に入ればいい。〔9月5日（火）17:50〕

○8月29日（火）にドライアイス（理化部の実験で使うため）の買い出しで綱島に行った。帰りスイカが食べたくなかったので、スーパーに寄ってスイカを買い、日頃お世話になっている事務室にも届けた。事務室の〇〇さんたちから「あのスイカ、とても甘くて美味しかったよ。どこのスイカ？波田町？」と、昨日5日（火）、お礼を言われた。お礼の品ももらった。スイカのブランドは見ないで買ったが、美味しさには「半分だけ」自信があった。週間予報で毎日の予想最高気温をチェックしておき、29日（火）にピンポイントでスイカを買った。当日は前後のどの日よりも群を抜いて暑かったのだ。あらかじめ、この日に買うことを決めておき「これで今年のスイカは食べ納めだなあ〜」と思いながら買った。これが気象条件がスイカの「美味しさ」の半分を占めると思う私の「実

験結果」。勤めの帰り道、家で食べるスイカを買って帰った。「今日を以て今年のスイカ食べ納め」「予報見て決めるスイカの食べ納め」。「自分がコントロールできる範囲外の条件も味方につける」＝「孫子の兵法〈戦わずして勝つ〉の応用」。〔9月6日（水）8:25〕

○最近のラッキー・アイテムを挙げるとすれば、蛍光ペン、万年筆、1.3mmシャープペン、滑らかに書けるボールペン（JET STREAM , Acroball など）、紙ばさみ、手帳にメモすること、はがきを書いて出すこと…、だと思う。勉強や仕事をするときにこれらを使うと、とにかく、楽しく仕事ができ、「うまくいくことが多いと思われる」。そして、仕事がかうまくいっていいような人を見ると、かなりの割合で「うまく使っているようだ」。

「真似する価値は高いと思う」。蛍光ペンの使い方は、故・瀬在徳雄さんから学んだ。「そんなの常識」という人はこの部分、「読み流して」ください。〔9月6日（水）11:40〕

○短歌（狂歌）「何時も（胸ポケットに）（耳にはさんだ）ボールペン遊び心と（花束秘めて）（一輪の花）」「受付の窓の内なる君の顔記念切手の如く見えけり」。理想の教師像についてのキャッチ・コピー（前にすでに書いていて、繰り返しになるかもしれませんが…）「昼も夜も筆の立つ教師」〔9月6日（水）11:55〕

○教員は獵師のようなもの。まず、若者たちに狩の方法を教える。次に「あそこへ行くと良い獲物が捕れるぞ」と若者たちに伝える。若者たちを励ます。手柄を挙げた若者たちを褒める。一緒に祝う。そして、いつか別れの日が来る。（松茸の収穫であっても同じ）。

（とにかくイイコト、イイモノについてよく知っていなければ…）〔9月6日（水）12:45〕

○「戦わずして勝つ」あるいは「負けるが勝ち」というエピソード。…A君は優秀な高校3年生。ある日、先生が宿題をレポートにして提出するよう、クラスの生徒たちに求めた。A君は締め切りよりも3日も早く、誰よりも早くレポートを提出した。残りの生徒たちは締め切り当日に慌ただしくドッと提出した。先生はこれらの生徒たちのレポートチェックに集中するあまり、A君がレポートをすでに提出していたことを忘れていた。締め切りを過ぎて数日後、先生がA君に「君はまだレポートを提出していないね。早く出すように」と言った。このときA君は何と答えたでしょう？と生徒に質問する。生徒は「もう出しました」「名簿にチェックしてありませんか？」と言った、等々の予想を言う。その後で、答を述べる。A君の答は「すみません。明日の朝に提出したいのですが、よろしいでしょうか？」だった。それはなぜか。A君の行動を追跡しよう。A君は翌朝、先生に二度目のレポートを何食わぬ顔で提出した。先生が「ない」と言っているのだから、先に出したレポートはもう出てこないのだ…とA君は考えたのだ。しかし、そそっかしい先生というものはあるがままにそそっかしいもので、A君が二度目のレポートを

提出した後で、最初のレポートを発見した。二通のレポートを手にして先生は「ああ、私はA君に対して何と申し訳ないことをしてしまったのだろう」と後悔するのであった。じつは、A君は〇〇大学の推薦入学を目指しており、余計なこと、先生と事を荒立てるようなこと、面倒臭いこと、レベルが低いことをしたくなかったのだ。その後、先生がどういう行動を取ったかは容易に想像ができる。推薦入学というものは複数の生徒が応募するものである。それぞれみんな熱心に勉強している。部活動や生徒会活動も熱心に行っている生徒ばかりである。甲乙つけがたい。しかし、校内選考で人数を絞らなければならない。先生はA君の取った「大人の行動」を誰よりも高く評価し、強くA君を推薦。他の職員も賛成した。こうしてA君は無事、校内選考を通り、推薦入試に出願し、みごと栄冠を勝ち取った。A君は今、第一志望であった〇〇大学で充実した学生生活を送っているということである。以上、「戦わずして勝つ」あるいは「負けるが勝ち」というエピソード。〔9月6日（水）14:30〕

○6時間目の授業中にできた五七五。「発想を根本的に変えてみる」「手や服につけないように注意する」「実際にやってもらって良かったです」「 $C_{12}H_{22}O_{11}$ （フルクトースなど二糖の分子式）」〔9月6日（水）16:05これから職員会議〕

○6日（水）夜、大学時代の少林寺拳法部同期会開催の予告連絡が入る。11月11日（土）、船橋にて。13日（月）の武田科学振興財団・高等学校理科教育振興奨励金贈呈式とつなげることができそう。絶妙のタイミング。11日（土）船橋近辺で泊。12日（日）はほぼフリー。すぐに参加する旨連絡。

○三行コント「やまびこ」を葉書に書いて昨夜、投函した。「関脇御嶽海／西から東へ／これでいいのだ／——バカボンパパ／（埴科郡・小太郎）」〔9月7日（木）朝〕

○「戦わずして勝つ」の実例、授業で配ったプリント（別紙）の中に発見。資生堂名誉会長の福原義春氏。フランス人新聞記者の質問「あなたの個人財産はどれくらいですか？」に対して、福原氏「私の唯一の財産は私のエスプリです。これは価格換算も売買もできるものではありません」（五七五）。「失礼な奴だ」「ノーコメント」「それほどではありません」等の答はレベルが低い。エスプリの本場フランスの記者に「エスプリ」で瞬時に切り返すところが凄い。「お前金持ちだろ？」に対して「頭良いんだぞ俺は！」と、わざとずらして持論を瞬時にして述べるしたたかな「エスプリ」。この二重構造が何とも言えず素晴らしい。これをピックアップした島地氏のセンスも素晴らしい。そして…〔9月7日（木）10:10〕

○昼休み、書道部員の女子生徒たちが作品展のために廊下を歩いていた。「出品？」と訊

いたら、ニコニコしてうなずいていたので、その顔を見てまた「すっぴん？」と言ったら、彼女たち大笑い。この様子を詠んで一首。「すっぴんの娘（こ）ら墨蹟を出品す身の丈よりも長き額縁」これを作って心境を五七五で。「何よりも生きた証を残したい」「秋が来た展覧会の季節です」「刀見に行ってみようと思います」。今日から坂城町鉄の展示館で「大相撲と日本刀展」〔9月7日（木）12:30〕

○3年化学の授業で五七五（七七つきも出来た）を思いつき、すぐに紙にメモ。「問題の答え合わせで五七五」「ラクトース還元作用示します」「デンプンはアミロペクチンアミロース混合物を指して言うなり」「デンプンを加水分解デキストリンさらにちぎってマルトース出来」「マルトース加水分解グルコース」「スクロース還元作用ありません」「転化糖還元作用示します」「スクロースインベルターゼ働けば（平面偏光ねじれて進む）（グルコースとフルクトース出来）」「いびきかく奴見て頓智働かせ（これは別途解説が要る・後日）」〔9月7日（木）13:50〕

○短歌をポストに投函（信毎歌壇）。そこでまた狂歌一首「思いつき葉書に短歌書き下ろしポストに入れてすぐに忘れる」〔9月7日（木）14:50〕

○島地勝彦著『知る悲しみ』（講談社）をパラパラとめくってタイトルを見る。「きょうの異端はあしたの正統」とあった。これは当然「きょうの異端はあすの正統」の方が語呂がよい。〔9月7日（木）14:50〕

○紙挟みに挟んであったメモから、以前作った川柳を発掘。「生徒を叱るとき」という題で「願い込め深い言葉で丸く言う」。〔9月7日（木）15:35〕

○人間は理性を持ってはいるが、やはり感情の動物だ。同じ50点を取った生徒が二人いる場合、前回80点を取った生徒より、前回20点だった生徒の方に「良い評価つけてあげたくなるものだ」。実際そうするかどうかは別だが…。〔9月8日（金）9:10〕

○野村克也監督が引用した肥前国平戸藩主・松浦静山（1760-1841）の名言「勝ちに不思議の勝ちあり、負けに不思議の負けなし」は名言だ。会社経営、スポーツ、受験、芸術、等々、適用範囲は広そうだ。安物ラジカセのCDプレーヤーで「良い演奏だな」と感じて、クルマで聴き直すと「そうでもなかったな」と感じることもある。逆に安物ラジカセのCDプレーヤーで「たいしたことないな」という演奏をクルマで聴き直し「良い演奏だな」と感じることはほとんどない。〔9月8日（金）9:15〕

○「××が欲しいな」と思って右手をチョコチョコと動かす。3～4日経つと（速い場合には翌日に）欲しかった××が自宅に届く。これは魔法そのものである。〔9月8日（金）9:40〕

○短歌一首「俗物でいいから人に騙されたいA Iでなくメガネでもなく」〔9月8日（金）9:45〕追記。推敲し「最期まで人に騙され続けたいA Iでなくヴァーチャルでなく」とした。

○篠ノ井高校で朝の一斉読書週間。反対の教師もいて「こんなオコチャマみたいなことやって…」と話しかけられたので、とっさに「運命だからね…」と答えていた。言ったあとで考えてみると、「運命だから、諦めて受け入れるしかない」とも解釈できるし、「本との出会いは運命だから、人生に大きな意味のある読書が出来る生徒もいるのではないか」とも解釈できる。本人が言うのも間抜けだが、私の解釈は後者。彼の「問い」にエスプリでもって「戦わずして勝つ」答とはどのようなものだろうか。〔9月8日（金）10:20〕

○迎撃ミサイルなんてインチキだ。そうに決まっている。でも、インチキであったとしても、堂々と誇示してみせることで抑止力が生まれているのではないか。だいたい静止しているものに当てるのだって難しいのに、超高速で運動している小さなものを超高速で運動している小さなもので射止めるなんて至難の業だ。ボールにボールが当てられるか、矢を矢で射落とせるかを考えてみればわかる。その点、人間は優秀だ。普段から心掛けて「腕を磨いてさえいれば」、かなりの率で、移ろいゆく人の心を「射止めることができるから」。〔9月8日（金）12:33〕

○授業中に思いついた五七五「プリントの答え合わせをしましょうか」「勉強は基礎が一番大事です」。中和反応で大事な量的関係は「酸からの $H^+$ の物質質量」と「塩基からの $OH^-$ の物質質量」が等しくなること。その他「電極が銅や銀なら（溶け出すよ）（イオン出る）」（陽極）、「白金と炭素電極変化せず」（陽極）、「銅銀のイオンがあれば析出す」（陰極）、「銅銀のイオンなければ水素出る」（陰極）、「ハロゲン化物イオンありゃガスになる」（陽極）、「ハロゲンのイオンなければ酸素ガス」（陽極）、「塩基性なら水酸化物イオン酸素のガスになる」（陽極）、「中酸性ならば水から酸素出る」（陽極）「陽極は太陽の陽酸化する陰極かげで還元反応」（以上、電気分解・陽極・陰極での酸化反応）〔9月8日（金）14:50 にとったメモに適宜追加〕

○自分の経験から類推して言う。授業がうまくいかなかった教師は、チョークの粉が服にたくさん付いているから、すぐにわかる。書道が下手な人が手や服を派手に汚すのと同じ。要するに注意力の問題。〔9月8日（金）15:55〕

○9月10日（日）信毎朝刊「建設標」の「やまびこ」に先日の投稿作品（三行コント）「関脇御嶽海／西から東へ／これでいいのだ／——バカボンパパ／（埴科郡・小太郎）」が掲載された。大相撲秋場所初日というこの上ないグッドタイミング。午後、実家の母を連



れて先日当たった「立川談慶独演会」へ。「ちりとてちん」「妾馬」。古典落語を古典の雰  
囲気を失うことなく現代に通用する形に微調整しているところが見事だと思った。母は  
生の落語を聴くのが初めてらしく、とても喜んでた。「週刊上田新聞社」に感謝。

○ジムで運動しているときなどに出てきたアイデアをメモした紙が増えてきたので打  
ち込むことにする。

・「○○の完全密封に成功した」という時点でもう○○は漏れている(情報が…)。「密約」  
もほとんどこれと同じ。「密約」は「密約がある」と認識された時点で「密約」でなくな  
る。

・(短歌) 上田高校化学科でお世話になった故・柳沢宏先生へ「白髪(しろかみ)の師(し)にあこが(あこが)れて学  
修(しゆ)め師(し)となり三十(さんじゅう)年(ねん) (みそとせ) 我(われ)も白髪(しろかみ) (しかも名前(なまえ)が柳沢(やなぎさわ))

・滴定(ていてん)曲線(きょくせん)との類推(るいすい)。pHと川柳(かわらう)や三行(さんぎょう)コント(コント)の出来(でき)具合(ぐあい)について。pH4以下(以下)は出来(でき)悪(わる)し。  
pH10以上(以上)は出来(でき)過ぎ(すぎ) (インパクト(インパクト)が強(か)すぎて様々(さまざま)な問題(問題)が生(お)じ、掲載(けいさい)でき(でき)ない。「立川  
談志(だんし)」状態(じょうたい)。pH9あたり(あたり)の作品(さくひん)が掲載(けいさい)される。一番(いちばん)出来(でき)がよ(よ)いもの(もの)が掲載(けいさい)されるの(の)では  
ない…ということ(こと)なの(なの)ではない(ない)か。

・官僚(くわんりょう)は「心(こころ)ここ(ここ)にあら(あら)ず」の人(ひと)々(々)

・後世(こうせい)に語り継(ついで)がれるべき(べき)名著(めいしやく)

・デスティネーション(destination)キャン(キャン)ペーン(ペーン)

・信州(しんしゅう)の裏表(うらおもて)ないおもてなし

・「戦争(せんそう)はいやだ」(共産党(共産党)支持者(支持者)), 「〈戦争(せんそう)はいやだ〉ばっかり(ばっかり)はいやだ」(自民党(自民党)支持  
者(支持者)), 「マルクス主義(マルクス主義)はいやだ」(自民党(自民党)支持者(支持者)), 「〈マルクス主義(マルクス主義)はいやだ〉ばっ  
かり(ばっかり)はいやだ」(共産党(共産党)支持者(支持者))。「原発(原発)はいやだ」(良識派(良識派)), 「〈原発(原発)はいやだ〉ばっ  
かり(ばっかり)はいやだ」(推進派(推進派)) (推進派(推進派)はたぶん「原発(原発)礼賛(れいさん)」ではない(ない)のである(である)。たぶん。)。 「不真面目(ふまへんめい)は  
いやだ」(良識派(良識派)), 「〈不真面目(ふまへんめい)はいやだ〉ばっかり(ばっかり)はいやだ」(フツー(フツー)の人(ひと))。 「ナチス(ナチス)は  
いやだ」(常識人(常識人))。 「〈ナチス(ナチス)はいやだ〉ばっかり(ばっかり)はいやだ」(麻生(あせい)太郎(たろう))。 自民党(自民党)が7月(7月)  
まで高支持率(こうしじりつ)を得(え)ていた背景(はいけい)はこ(こ)うい(い)う発想(はつしやう)にあ(あ)った(った)のでは(では)ない(ない)か。 人間(にんげん)が認  
識(にんし)できる(できる)のは「否定(ひてい)の否定(ひてい)」まで(まで)。 あとは直観(ちくかん)的(てき)にはわ(わ)から(から)なくな(くな)る。 「受け皿(うけびら)」政  
党(せいとう)の重要(じゅうよう)性(せい), または、 牧衷(まきさか)さん(さん)の説(せつ)いて(いて)いた「党議(たいぎ)拘束(こうさく)を外(はず)す」こと(こと)の重要(じゅう  
よう)性(せい)。

・センター試験(センター試験)化学(化学)。 平均(平均)は約(約)50点(点)。 たと(たと)えば(えば), 目標(目標)点(てん)70点(点)と(と)する(する)生徒(せいと)の勉強(べんきやう)法(ぽう)。 70点(点)  
を約(約)1.4倍(1.4倍)して100点(点)と(と)する(する)。 30点(点)分(ぶん)は最初(さいしょ)から(から)ない(ない)もの(もの)と(と)する(する) (捨(す)てる), と(と)いう(いう)意識(いし)  
が(が)あ(あ)ると(と)ない(ない)との(との)差(さ)は大(おほ)き(き)い(い)。 たと(たと)えば(えば)40点(点)を取(と)れば1.4倍(1.4倍)で56点(点)と(と)見る(みる)。 これ(これ)なら(なら)素点(すてん)  
で(で)認(にん)識(し)する(する)より(より)も大(おほ)きな達成(たっせい)感(かん)が得(え)られる(られる)し, 目標(目標)ま(ま)での(での)到達(とったつ)度(ど)も良(よ)くわ(わ)かる(かる)。

・中島みゆきの名曲「宙船（そらふね）」（歌・TOKIO）歌詞にある外来語は「オール」だけ。「櫂（かい）」では「貝」と紛らわしくて、分かりにくいものなあ。あとはみんな日本語。ジャニーズの普通の曲でこれは考えられないこと。これは何を意味するか。オールは輸入品でもいいから、日本人よ、あとは自前でやれということではないか。

・仏壇や神棚は「流れ」の象徴。スクラップ&ビルドが大切。常日頃から「古いものから順に集約統合して簡素化する」意識が大切。そうしないと仏壇は「フン詰まり」になる。整理整頓主義。ちなみに、私は仏壇や神棚がないと調子が出ない（傲慢になる）タイプなので、今のところ、これらを必要とする。〔以上、9月11日（月）5:45、今朝は新聞の休刊日〕

○まだ、別のメモがあった。

・面接練習で身につけることがあるのと同様に、面接練習で失うものもある。本番の面接練習のために優れた答を準備しているものが練習をすると、相手をした教師から「技」が無料で他の教師・生徒に流出する。「本当にできる生徒は黙ってる」。

・面接試験で相手の想像を数段上回る答えができると良い。「今朝の新聞を読みましたか？」に対して想定されるのは、「はい。読みました」「いいえ。読んでいません」だが、「はい。三紙読みました」「はい。私は新聞中毒です」は相手の想定を越えた答。

・「あなたは本を読みますか？」という問いには「はい」「いいえ」ではなく、「はい。読むだけではもの足りないので、本を作っています（書いています）」または、「はい。私は読書中毒です」という答。

・タイトル「命捧げます」。「日本が北朝鮮に敵わないところは？」という問いに対する答の例。「《指導者のために命を捧げても良い》と言う人の人数」で日本は負ける。

・「生きていても本当に生きているとは限らない。死んでいても本当に死んでいるとは限らない」（故・山本夏彦氏の名言）

・死刑囚のこの世における存在意義は、死刑囚として生きていること。社会的に抹殺された（抹殺されるべき）人間として生きているという矛盾。死刑囚としての生き甲斐ほど純粋な生き甲斐は他にないのかもしれない。「今日も一日、何事もなく終わった」という言葉の深さの違い。

・「優しさで包む《知性の安楽死》」。…「難しいから、この問題は解か（け）なくても良いよ」ということについて、自戒をこめて。〔以上、9月11日（月）夕方〕

○「すぐれた授業」とは「自分も相手も高められる授業」ではないだろうか。「すぐれた試合」も同じ。「人を高められる試合」。勝ち負けは二の次。（たとえ負けても）「後味の

良い、爽やかな」試合がよい。「陶冶」という言葉が浮かんだので辞書で調べてみたが、幸いにしてとても的確であった。「陶冶」＝「いろいろな試練を経させて、役に立つ一人前の人間に育てること」『新明解国語辞典』（三省堂）。やっぱり勝ち負けは二の次だ。

○詳しくはまだ書けないが、篠ノ井高校図書室で調べ物。あつと言う間に一時間が過ぎたので、たぶんかなり集中していたのであろう。調べたあと、心が洗われるような気分になった。このような感触は、ネット検索の「はしご」では決して得られない。文献をとこと狭しと並べて勉強するには、図書室の環境は最高だ。豊富な文献に囲まれた重厚な空間。広い机。暑すぎず涼しすぎずの静かな部屋。凜とした空気。採光良く明るい窓。適切な助言・助力をしてくれる朗らかな司書嬢。目的は異なるが、志を同じくする同室者。…至福の時。〔以上、調べ物が終わった9月12日（火）9:45〕

○朝の調べ物の続き。大きな進展あるも、朝のようなすがすがしさには至らず。光も風も霽囲気も、午後に比べて午前の方が遙かに優る。〔9月12日（火）16:30〕

○『週刊文春』の「川柳のらりくらり」に投稿。お題は「デパート」。先週から粘ったがなかなか難しかった。「包装紙並べてしばし考古学」「閉店の間際デパガと笑み交わす」「とんがった季節さがしにデパートへ」「デパートで高い楊枝を買ってみる」「デパートで買った芋から後光さす」。〔9月13日（水）16:05〕

○私が護憲運動家だったとしたら、次のようなスローガンを立てる。「現行憲法を《過去の栄光》にするな！」〔9月14日（木）9:15〕

○川柳を一句。「〔革命〕を唱える総理摩訶不思議」（人づくり革命，生産性革命）＝（何と知性に欠けた唾棄すべき言葉たちだろう。「革命」が可哀相になる）〔9月14日（木）9:35〕

○午前中、すべて空き時間。重要な仕事を完了し、投函。それとは別に、読書がはかどった。締め切りを来週に延ばすことにした。午後は県庁に出張（教育課程連絡会議）。図書館は読書に集中できる良い場所。〔9月15日（金）12:05〕

○9月17日（日）朝刊で「解散風」吹き荒れる。折しも外は台風。

○19日（火）夜、ホテルメトロポリタン長野で金融経済講演会18:30～20:00。読書家で知られた出口治明氏の講演は格調高く、滋味深い。そして愉快。名刺交換した。さっそく出口氏の著書とお薦めの本をネットで注文してみた。「詳細は別にレポート書く予定」。〔9月20日（水）8:40〕

○『週刊文春』「川柳のらりくらり」に応募。お題は「速達」。ハッキリ言って速達は斜陽でマイナーになりつつある存在と思うので、難しい。「〔速達〕とメールにオビを入れ

てみる」「速達のつもり髪染め君のもと」「ドローンで速達届く日も近い」「ガラケーに速達夕刊そして俺」「君と逢ういつも気分は速達で」〔9月20日（水）10:04〕

○昨日の信毎柳壇入選句トップ「初秋刀魚今年も無事に夕餉膳」(松本市・田中昌子さん) — 飛び抜けて素晴らしい句だと思った。まるでベートーヴェンの『田園』の終結部のような清澄な印象。格調が高い。結び「孫来ると貧乏神が座を外す」(長野市・原田耕司さん) — 「ユーモアがにじみ出ている素晴らしい」。〔9月20日（水）10:10〕

＊

最後までおつきあいいただき、ありがとうございました。「予定より五日遅れて完成す」。これから、さっそく次回10月分の執筆に今日中に取りかかる予定。「最後まで読んで下さりありがとう」。(終)〔2017年9月20日（水）12:45 脱稿〕



久しぶりに整理整頓を済ませた仕事場の風景〔2017年9月17日（日）台風18号が接近中〕